

MIZUHO MONTHLY MARKET NEWS

《3月の予想レンジ》

USD/NTD : 29.400 ~ 30.200

JPY/NTD : 0.3620 ~ 0.3750

(NTD/JPY: 2.67~2.77 円 ドル/円ベース 78.50~83.60 円)

最近の相場動向 : 台湾ドルは 29.50 付近で一進一退となった。

29.690 でオープン後
29.50 付近で一進一退

ギリシャ問題を受け、
リスクオン・オフを繰
り返すものの、もみ合
い。

大手格付会社の欧州
各国の格付引き下げ
から、一時ドル買い。

その後中国の預金準
備率引き下げから台
湾ドル買い

日銀金融政策決定会
合を受けて円売り。

ドル/円の上昇を受け
台湾ドル/円も上昇し
た。

2月のドル/台湾ドル相場は、29.50 付近で一進一退の展開となった。

2月のドル/台湾ドル相場は、29.690 でオープン。ギリシャ債務問題を眺めながらレンジ取引が継続。楽観的な見通しが台頭し、リスク許容度が回復する場面では台湾株式市場が堅調に推移、台湾ドル買い圧力が強まるものの、ドル/台湾ドルの下値では台湾中銀によるドル買いも入っていることから 29.40 付近では底堅く推移した。

バーナンキ FRB 議長の議会証言では前回 FOMC で言及された FED のスタンスが変わっていないことが示され、これを受けてリスクオンの展開となると、ドル/台湾ドルは台湾ドル買いが強まったが、一方で依然としてギリシャ債務問題が不透明であることや、台湾中銀のドル買い介入警戒感から、29.50 レベルでは下値も限定的となった。

月半ば、大手格付け会社が欧州各国の格付けを引き下げたことや、国内大手生保による大口のドル買い等からドルが上昇する局面があったが、域内輸出筋のドル売り台湾ドル買い圧力も強く、引き続き方向感に乏しい推移。その後もギリシャ債務問題のヘッドラインに一喜一憂しながらリスクオン・オフを繰り返した。

月後半、中国が預金準備率を引き下げたことから、投資家のリスク許容度が高まり、ドル/台湾ドルは 29.50 割れまでドル売り台湾ドル買いが進んだ。しかし、台湾中銀のドル買い介入や、輸入企業によるドル買い台湾ドル売りがドル/台湾ドルの下値を支え、再びギリシャ債務問題を睨み、膠着状態の相場となった。その後、ギリシャ支援の合意が決定すると、リスクオンの相場となり、台湾ドル買いが強まるが、29.50 付近を更に上回って台湾ドルが買われるには材料不足であり、やはりギリシャ支援を睨みながら一進一退の展開が続いた。月末も新規材料探しの状況が続き、様子見気分の強い展開が続いている。

2月の台湾ドル/円相場は、円売り優勢の展開となった。

2月の台湾ドル/円相場は、2円 53 銭レベルでオープン。月初から、ドル/台湾ドルは膠着状態が続いており、台湾ドル/円は、ドル/円相場の動きに連れやすい展開。日銀金融政策決定会合において資産買い入れ等の基金による資産買入額を 10 兆円増額したほか、物価政策も明確化したこと、1月の貿易収支で過去最大の貿易赤字幅を更新したこと等から、円を売る動きが強まった。また、発表された FOMC 議事要旨は期待されていた程ハト派な内容ではなかったことから量的緩和第三弾(QE3)に対する期待が後退、ドル買戻しが一層強まったことからドル/円が上昇し、それに連れられ、台湾ドル/円も 2円 71 銭近辺まで上昇している。

MIZUHO MONTHLY MARKET NEWS

3月の見通し： 一進一退の展開を予想

ギリシャ債務問題は、追加支援に関する内容が決定。

今後は改革の実行性や、選挙等が不透明材料。

台湾域内の材料は、弱めものが散見。

行政院は 2012 年の GDP 成長率を下方修正

テクニカルにも一方向的に同レベルを抜ける可能性は低そうだ。

3月のドル/台湾ドル相場は、一進一退の展開を予想する。

2月のドル/台湾ドル相場は、29.50付近での膠着相場が続いた。台湾ドル買いが進んできた1月の相場からは一転し、方向感の出づらい相場展開となっている。ギリシャ債務問題は追加支援に関する内容が決定し、事実上承認されつつある状況と見られ、今後は、IMF 理事会によるギリシャ救済プログラムへの拠出額の決定等に注目が集まるのではないかと見られる。ただし、改革が本当に実行できるのか、また、4月の選挙後も現在の路線を継続できるのか、という点については依然として不透明要素になりそうである。

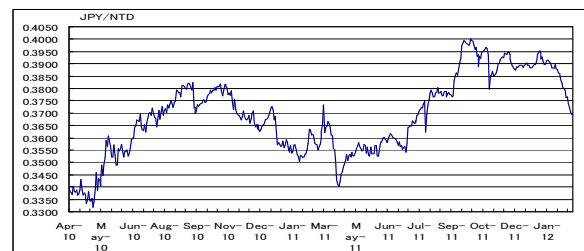
現在のマーケットでは、ギリシャ債務問題がやや材料として新味に欠けるものとなり、相場を大きく動かす程の影響は無くなってきているように見える。これからも、ギリシャ債務問題の突発的な材料によってリスクオン・オフとなる可能性は否定しないが、その影響力は減少する傾向が強まるのではないかと見られる。

他方、台湾域内の材料は、弱いものが散見される。失業率こそ、市場予想比強めの内容となったものの、輸出受注、GDP、鉱工業生産等は予想比弱い内容であることに加え、前月比でも大幅に弱含む内容となっている。

特に、10～12月期 GDP は前年同期比 1.89%上昇となり、2009年7～9月期以来の低い成長率。行政院主計処では、“世界的なハイテク産業の競争激化から、輸出は伸び悩む”と予想しており今年の台湾域内 GDP 成長率の予測を、3.91%から 3.85%へ下方修正した。これらも、今まで続けてきた台湾ドル買い圧力を弱める材料であり、相場の膠着感を高める要因といえそうだ。

台湾株式市場加権指数は、8000ポイント付近で足踏み状態が続く、ドル/台湾ドル相場は、29.50付近で下支えられている。同レベルはチャート分析上のテクニカルポイントとなっており、ファンダメンタルズ面やテクニカル面、両面からみても、現在の相場環境が同レベルを抜けて行くような状況とは言いづらい。従って、もう暫くは方向感の出づらい展開が続くと考える。

ただし、揉み合い相場後には相場が大きく動くこともあるため、ギリシャ問題の混乱や、米国の急激なファンダメンタルズの変化等には注意を要するだろう。



- ・この資料は 2012 年 2 月 29 日現在の経済情勢等を基に作成しております。
- ・為替相場に関するお問い合わせは...
みずほコーポレート銀行 台北支店 資金課
今村、Melody、Eddie、Rita、Adrian
Tel : 886-2-2714-7406
e-mail : melody.tung@mizuho-cb.com
までお願い致します。